

2020/02/26(水)10:32

授業科目名	行為としてのことば(語用論)		授業形態	講義
英語科目名	Pragmatics		開講学期	前期
対象学年	2		単位数	2
科目責任者	山下 里香		ナンバリング	4401
科目担当者				
山下 里香				
授業の概要				
語用論は、言語の構造と言語使用(語用、コミュニケーション)、そして言語が使用される社会との関係を念頭に、話し手と聞き手の相互行為において生み出される意味を研究する学問である。ことばを使うこと、つまり言語使用(語用、コミュニケーション)は、情報伝達の手段である。しかし情報伝達以外に、人と人を結びつけたり疎遠にしたり、話し手のアイデンティティを示したりというように、なんらかの「行為」がなされている。本講義では、このような言語使用(語用、コミュニケーション)の特徴と機能を語用論の理論に基づいて学ぶ。そして、文化の異なりがどのように言語使用に反映し、コミュニケーションに影響を与えるのかを知るために、異文化語用論、社会語用論、会話分析、談話分析についても触れ、具体的な事例を考察する。				
授業の達成目標				
1. 語用論の基本理論を理解し、説明できる。 2. 言語使用(語用、コミュニケーション)に行為の側面があることを理解し、説明できる。 3. 異なる文化・言語をもつ話者同士のコミュニケーション・スタイルにおいて生じる齟齬(ズレ)を分析的に説明できる。				
成績評価方法				
授業への出席と積極的参加(20%)、レポート課題(40%)・テスト(40%) 授業15回のうち12回以上の出席を、評価の前提条件とする。				
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)				
「授業時間外の指導等」欄の指示をよく読み、毎回の授業には適切な準備を行なったうえで参加すること。授業において積極的な発言や参加を歓迎する。体系的な学びのために「ことばと社会(社会言語学)」、「言語と人間(言語人類学)」の履修を勧める。				
テキスト・参考書				
テキストは適宜PDFで共有する。ただし、授業中にそのテキストをスマートフォンで表示して見るのは禁止する。必ず、紙に印刷してくるか、タブレットやノートPCなどを用いて表示すること。				
参考書: 田中典子(2012/2006)『プラグマティクス・ワークショップ:身のまわりの言葉を語用論的に見る』(第二版).春風社. 加藤重広・滝浦真人編(2016)『語用論研究法ガイドブック』ひつじ書房 中島信夫編(2012)『語用論(朝倉日英対照言語学シリーズ)』朝倉書店 ヘレン・スペンサー＝オーティ(2004)『異文化理解の語用論—理論と実践』研究社 ヤコブ・メイ(2005)『批判的社会語用論入門』三元社. ジェニー・トーマス(1998)『語用論入門』研究社. Yule, G. (1996). Pragmatics. Oxford: Oxford University Press. ブラウン,P,&レヴィンソン,S. (2016/2011)『ポライトネス:言語使用における、ある普遍現象』研究社 ガンパーズ,J(2004). 『認知と相互行為の社会言語学』松柏社.				
その他授業内で適宜紹介する。				
オフィスアワー				
授業前後に質問してください。または、メールにて事前にアポイントメントをとってください。(rikayam1@kanto-gakuin.ac.jp)				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法				
授業内およびJ-Passにて講評を行う。				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	山下 里香	初回ガイダンス 1) 授業計画を配布し授業の進め方を説明する。 2) 「語用論」とは何か。語用論がコミュニケーションと言語使用に関する研究分野であることを確認し、言語学や異文化コミュニケーション学において語用論	【予習】第1回目の講義までに教科書を手し、「語用論」とはどのような学問分野であるかをChapter 3「語用論とは何か」(pp. 15-22)を読んでおくこと。(90分) 【復習】授業内容を復習すること。(90分)	

		を学ぶ意義を明確にする。	
2	山下 里香	オースティンの発話行為理論① 1) ことばを用いる、つまり、話すということが何らかの行為をするということについて、オースティンが唱えた「発話行為」理論を紹介し、説明する。 2) 「遂行文」の例を示し、身近で用いられている「遂行文」の例を出し合い、その特徴を議論する。	【予習】教科書のChapter 4「発話行為」(pp. 23-30)を読んでおくこと。(90分) 【復習】授業内容を復習すること。(90分)
3	山下 里香	オースティンの発話行為理論② 1) 発語 (locution)、発語内行為 (illocution)、発語媒介行為 (perlocution) について講義する。 2) グループにわかれ、Chapter 5の「謝罪」という発話行為の事例を発語、発語内行為、発語媒介行為を軸に分析し、発話がもつ意味と効力について考え、報告する。	【予習】教科書のChapter 5「調査1: 謝罪という発話行為」(pp. 31-38)を読んでおくこと。(90分) 【レポート課題①】オースティンの発話行為理論について授業内での指示に基づいてレポートを作成し、提出すること。(90分)
4	山下 里香	グライスの会話の含意 1) ことばで語られないことをも補って発話の意味は解釈される。その仕組みについて含意 (implicature) と推論 (inference) を軸に講義する。 2) 身近な日常会話の事例をグループで分析し、発表する。	【予習】教科書のChapter 6(pp. 39-46)「会話の含意」を読んでおくこと。(90分) 【復習】授業内容を復習すること。(90分)
5	山下 里香	グライスの会話の公理と協調の原則 1) グライスが唱えた、量、質、関係、様式の「会話の公理」を説明する。 2) 会話の公理が破られた際に生じる「意味」(含意、効果)を協調の原則に基づいて考察する。	【予習】前回の授業で指示された課題をしておくこと。(90分) 【復習】授業内容を復習すること。(90分)
6	山下 里香	異文化語用論① 前回までの授業で学んだ発話行為理論と会話の公理等を踏まえ、異文化間においてこれらの指針がどのように異なるかを示す事例を研究する。	【予習】前回の授業で指示された課題をやった上で授業に出席すること。(90分) 【レポート課題②】これまでに学んだ理論を用いて授業内で指示する異文化語用論の事例について考察し、レポートにまとめ提出すること。(90分)
7	山下 里香	サールの間接的発話行為と発話行為の成立条件 1) これまでに学習したオースティン、グライスの理論を振り返りながら、サールが唱える間接的発話行為について考察する。 2) 発話行為の成立条件について説明し、グループに分かれ「謝罪」や「命令」、「依頼」など具体的な発話行為の事例を分析し、議論する。	【予習】教科書のChapter 7「間接発話行為」(pp. 47-54)を読んでおくこと。(90分) 【復習】授業内容を復習すること。(90分)
8	山下 里香	語用論と間接的な言い回し これまでに学んだ間接的な発話の理論や事例を踏まえ、間接的な発話がなされるコンテキストと解釈の可能性について考察する。	【予習】前回の授業で指示された課題をしておくこと。(90分) 【復習】授業内容を復習すること。(90分)
9	山下 里香	ポライトネス理論とフェイス① 1) 語用論で用いられる「ポライトネス」という概念について説明する。 2) 敬意表現、あらたまりの度合いを示す表現が用いられた事例をポライトネスの視点から分析し考察する。	【予習】教科書のChapter 8「ポライトネス」(pp. 55-63)までを読んでおくこと。(90分) 【復習】授業内容を復習すること。(90分)
		ポライトネス理論とフェイス② 1) ブラウン&レヴィンソンのポライトネ	

10	山下 里香	ス理論について、フェイスの概念とフェイスを脅かす行為(FTA)に焦点を当てて講義する。 2) 具体的な会話事例を提示し、ポライトネス理論、FTAの視点から分析し、考察する。	【予習】教科書のChapter 9「ポライトネス(2)」(pp. 64-71)を読んでおくこと。(90分) 【レポート課題③】ポライトネス理論とフェイスに関して、授業内の指示に従ってレポートを作成し、提出すること。(90分)
11	山下 里香	異文化語用論② 異なる文化間においては、間接的・直接的な発話の仕方や、ポライトネス方略も異なることを示す事例を研究する。	【予習】教科書Chapter 11「異文化語用論」(pp. 80-86)を読んでおくこと。(90分) 【復習】授業内容を復習し、学期末課題の準備を始めること。(90分)
12	山下 里香	語用論と会話分析① 1) 語用論と「会話分析」という研究方法について関連性を講義する。 2) 「会話分析」の基本用語と概念(話者交替、移行適切場所、隣接ペア等)を説明する。	【予習】前回の授業で指示された課題をやった上で授業に出席すること。(90分) 【復習】授業内容を復習し、学期末課題に取り組むこと。(90分)
13	山下 里香	語用論と会話分析② 前回の授業で学んだ「会話分析」の概念を用い、実際の会話事例を分析し、発表する。	【予習】前回の授業で指示された課題をやった上で授業に出席すること。(90分) 【復習】授業内容を復習し、学期末課題に取り組むこと。(90分)
14	山下 里香	社会語用論 これまで学んできた語用論の理論を、社会における権力関係をコンテクスト要素として明示的に取り入れたヤコブ・メイの「社会語用論」の理論と対照させながら講義する。	【予習】前回の授業で指示された課題をやった上で授業に出席すること。(90分) 【復習】授業内容を復習し、学期末課題に取り組むこと。(90分)
15	山下 里香	全体のまとめ なぜ「語用論」を学ぶ意義があるのかについて、これまでに学んだことからグループで議論する。 最終テスト	【予習】前回の授業で指示された課題をやった上で授業に出席すること。(90分) 【復習】なぜ「語用論」を学ぶ意義があるのかについて、これまでに学んだことから考察し、まとめる。(90分)

2020/02/21(金)17:07

授業科目名	ことばと社会(社会言語学)		授業形態	講義
英語科目名	Sociolinguistics		開講学期	前期
対象学年	2		単位数	2
科目責任者	齊藤 美野		ナンバリング	4402
科目担当者				
齊藤 美野				
授業の概要				
<p>私たちが日々の暮らしの中で当たり前に使っている「ことば」について、ことばが使用される社会・状況、ことばを使用する人々の社会的属性(地域、社会階層、年齢、ジェンダーなど)との関わりを考えながら、意識を高めることを目指す。ことばの使用は使用者の自覚の有無にかかわらず社会的要素などから影響を受ける。このようなコミュニケーションの実際に、多様な角度から接近し理解を深める。受講生は講義を通じて言語への社会言語学的アプローチを学び、グループ・ワークなどを通して言語現象の分析の練習をし、身の回りにある言語現象の研究発表を個々に行う。</p>				
授業の達成目標				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 言語と社会・状況・使用者の関係性について注意して考え、自身の意見を他者に伝えることができる。</li> <li>2. 社会言語学の用語・概念を理解し、説明できる。</li> <li>3. 授業で学んだことを活かし(引用・応用)、言語現象に関する研究を行い、発表できる。</li> </ol>				
成績評価方法				
<p>授業内課題・グループワークへの参加・貢献度(20%)、小テスト(講義・教科書から学んだ点の理解度)×2回(30%)、研究発表(各概念・理論の理解・応用度合、論理性)(10%)、レポート(各概念・理論の理解・応用度合、論理性)(40%)の合計点により最終評価を行う。3分の2以上の授業回出席を評価の前提条件とし、欠席は減点とする。</p>				
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)				
<p>【履修者数の制限】履修者数の上限を45名とする。履修希望者が左記の上限を上回る場合、初回授業中に、上の学年の学生を優先したうえで抽選を行う。履修希望者は、初回授業に必ず出席すること。</p> <p>【課題・準備】「授業時間外の指導等」欄をよく読み、毎回の授業のために必要な準備を欠かさず行うことを期待する。研究発表(レポートを含む)に向けて、授業時間外に各自研究を行い、授業内外で発表・レポートの準備を入念に行ってもらおう。</p>				
テキスト・参考書				
教科書: 岩田祐子・重光由加・村田泰美(2013).『概説 社会言語学』ひつじ書房。				
オフィスアワー				
初回授業にて告知する。				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法				
小テストは、授業にて返却する。レポートの返却を希望する者には、後期開始時に返却する。				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	齊藤 美野	<p>授業への導入</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 社会言語学とはどのような学問分野か知る</li> <li>2) 普段使用していることばについて、社会言語学の観点から考える練習をする</li> </ol>	<p>【予習】初回の授業までに教科書を用意し、持参する また、いま気になっている(あるいはこれまでに興味をもった)ことば・言語使用をA4用紙に書き出してくる(90分)</p> <p>【復習】本日の授業で学んだことを、ノート等に自分のことばでまとめ直し、独自の例も加える(90分)</p>	
2	齊藤 美野	<p>言語と地域</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 「方言」「言語変種」について学ぶ</li> <li>2) 言語と「威信」の関係について考える</li> </ol>	<p>【予習】教科書第2章の2.1(pp. 13-14)を読み、自身の知識・経験や身の回りのことばとの関わりを考えながら、大切な点を書き出しておく(90分)</p> <p>【復習】本日の授業で学んだことを、ノート等に自分のことばでまとめ直し、独自の例も加える(90分)</p>	
3	齊藤 美野	<p>ゲスト講義 * 変更可能性あり</p> <p>藤田ラウンド幸世氏(国際基督教大学客員准教授)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 宮古島とみゃーくふつ</li> <li>2) ドキュメンタリーフィルム『みゃーくふつの未来』上映</li> </ol>	<p>【予習】指定資料を読み、内容を理解してから授業に臨むこと(90分)</p> <p>【復習】本日の授業についてリアクション・ペーパーを執筆し、提出する(詳細は授業中に告知する)(90分)</p>	

4	齊藤 美野	言語と社会階層／言語と民族 1) 「社会階層方言」について学ぶ 2) W. Labovの調査方法と結果を学ぶ 3) 「AAVE」「ピジン」「クレオール」について学ぶ	【予習】教科書第3章の3.1から3.3(pp. 35-37)と第4章の4.1から4.4(pp. 51-56)を読み、自身の知識・経験や身の回りのことばとの関わりを考え、書き出しておく(90分) 【復習】本日の授業で学んだことを、ノート等に自分のことばでまとめ直し、独自の例も加える(90分)
5	齊藤 美野	言語とジェンダー(1) 1) 「ジェンダー」について考える 2) 言語使用とジェンダーの関わりを考える	【予習】教科書第5章の5.1から5.3.2(pp. 69-73)を読み、自身の知識・経験や身の回りのことばとの関わりを考えながら、大切な点を書き出しておく(90分) 【復習】本日の授業で学んだことを、ノート等に自分のことばでまとめ直し、独自の例も加える(90分)
6	齊藤 美野	言語とジェンダー(2)／社会言語学の研究方法 1) 性差別的言語について学ぶ 2) 学期末の各自の研究に向け、研究方法を学ぶ	【予習】教科書第20章を読み、自身の知識・経験や身の回りのことばとの関わりを考えながら、大切な点を書き出しておく(90分) 【復習】本日の授業で学んだことを、ノート等に自分のことばでまとめ直し、独自の例も加える(90分)
7	齊藤 美野	小テスト1 言語と年齢 1) 若者ことばの特徴を学ぶ 2) 若者ことばの調査・分析を行う	【予習】小テストに向けた準備をする(出題範囲等は授業内で説明する)(120分) 【復習】本日の授業で学んだことを、ノート等に自分のことばでまとめ直し、独自の例も加える(90分)
8	齊藤 美野	☆研究構想報告書提出日 言語の選択 1) 多言語社会について知る 2) 社会における言語選択について学ぶ	【予習】研究構想報告書を執筆する(学期末に行う研究の構想をまとめる。詳細は授業内に説明する) 教科書第7章の7.1から7.3(pp. 99-103)を読み、自身の知識・経験や身の回りのことばとの関わりを考えながら、大切な点を書き出しておく(90分) 【復習】本日の授業で学んだことを、ノート等に自分のことばでまとめ直し、独自の例も加える(90分)
9	齊藤 美野	言語の状況差、適切さ 1) 「レジスター」「スタイル」について学ぶ 2) スピーチ・アコモデーション理論を学ぶ	【予習】教科書第8章の8.5から8.6(pp. 127-128)を読んでおく(90分) 【復習】本日の授業で学んだことを、ノート等に自分のことばでまとめ直し、独自の例も加える(90分)
10	齊藤 美野	ポライトネス 1) 「フェイス」について学ぶ 2) 「ポライトネス・ストラテジー」を学ぶ	【予習】教科書第9章の9.1から9.4(pp. 131-139)を読み、自身の知識・経験や身の回りのことばとの関わりを考えながら、大切な点を書き出しておく(90分) 【復習】本授業で学んだ事柄を振り返りながら、各自の研究を進める(90分)
11	齊藤 美野	事例研究: これまでに学んだ理論を用い、提示された会話を分析する	【予習】事例研究のための指定資料を読み、考察しておく(90分) 【復習】本授業で学んだ事柄を振り返りながら、各自の研究を進める(90分)
12	齊藤 美野	小テスト2 研究発表の準備: クラスメイトと協力し、各自の研究の不足点等を確認しながら、準備を進める	【予習】小テストに向けた準備をする(出題範囲等は授業内で説明する)(120分) 【復習】本授業で学んだ事柄を振り返りながら、各自の研究を進める(90分)
13	齊藤 美野	研究発表(1) 1) 独自の研究成果を発表する(この回の担当者のみ) 2) クラスメイトの発表について、直接質問をしたり、関心や疑問をもった点などを記すリアクション・ペーパーを書く	【予習】発表担当者は入念に準備し、練習をしておく(準備の仕方は授業内に説明する)(120分) 【復習】クラスメイトの発表から知った事柄を、本授業で学んできた理論等と結びつけながら振り返り、ノート等にまとめる(90分)
14	齊藤 美野	研究発表(2) 1) 独自の研究成果を発表する(この回の担当者のみ) 2) クラスメイトの発表について、直接質問をしたり、関心や疑問をもった点などを記すリアクション・ペーパーを書く	【予習】発表担当者は入念に準備し、練習をしておくこと(準備の仕方は授業内に説明する)(120分) 【復習】クラスメイトの発表から知った事柄を、本授業で学んできた理論等と結びつけながら振り返り、ノート等にまとめる(90分)
		研究発表(3)とまとめ 1) 独自の研究成果を発表する(この回	【予習】発表担当者は入念に準備し、練習をしておくこと(準備の仕方は授業内に説明する)／レポートを執筆する(レポートの詳しい説

15	齊藤 美野	の担当者のみ) 2) クラスメイトの発表について、直接質問をしたり、関心や疑問をもった点などを記すリアクション・ペーパーを書く	明は、授業内で行う)(180分) 【復習】クラスメイトの発表から知った事柄を、本授業で学んできた理論等と結びつけながら振り返り、ノート等にまとめる(30分)

2020/07/31(金)15:22

授業科目名	応用言語学	授業形態	講義
英語科目名	Applied Linguistics	開講学期	前期
対象学年	2	単位数	2
科目責任者	今井 純子	ナンバリング	4403
科目担当者			
今井 純子			
授業の概要			
<p>応用言語学の入門として、日本語、英語、外国語といった言語に関する疑問・体験や現象を、学術的に捉え直します。主に、言語の習得 (Acquisition/Learning)、言語教育 (Pedagogy/Teaching)、言語の使われ方 (Use)、言語の分析 (Analysis) の4つの分野について、講義を通して概観します。各テーマに関する代表的な研究論文を読み解く演習を行います。また、自己の言語体験を応用言語学のテーマと照らし合わせて振り返り、各自の興味・関心や研究課題へと結びつけます。</p>			
授業の達成目標			
<p>(1) 講義を通して、応用言語学が広範に扱うテーマと4つの分野の特徴を理解する  (2) 課題(発表、振り返り等)を通して、新しく学んだ応用言語学の概念や理論を体系化し理解を深める  (3) 課題(レポート等)を通して、自己の言語に関する疑問や関心を、より学術的に捉える</p>			
成績評価方法			
<p>授業参加度 (20%)、各回のテーマについての振り返りシート (15%)、グループプレゼンテーション1回 (15%)、期末レポートと成果発表 (50%)の結果に基づき、総合的に評価する。なお、3分の2以上の出席を評価の前提とする。</p>			
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)			
<p>各回のテーマについて配布資料や論文等は事前に読んでくること。また、宿題や授業内でのアクティビティー、発表、期末レポートについては、各自責任をもってとりくむこと。</p>			
テキスト・参考書			
<p>必要なプリント、論文のPDF、リンク先等は、授業内でお知らせ、または配布します。</p> <p>参考書は適宜ご紹介いたします。応用言語学(Applied Linguistics)関連の書籍は、学術メディアセンターに各種取り揃えてあるので、積極的に利用すること。</p>			
オフィスアワー			
<p>授業開講時限の前後の他、担当教員とアポイントメントをとった上で面談可。</p>			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法			
<p>授業内で返却する。</p>			
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】			
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)
第1回	今井純子	<p>オリエンテーション:</p> <p>(a) 授業の概要の説明  (b) 課題と成績評価の説明  (c) 応用言語学の主要概念の紹介  (d) 自己の言語学習の振り返り</p>	<p>予習: 言語に関する疑問や興味のあるテーマについて事前にリストし、授業での議論に備える。(90分)</p> <p>復習: 配布資料を再読し、自己の学習体験を振り返り、内容理解を深める。(30分)</p>
第2回	今井純子	<p>言語の習得 (1):</p> <p>(a) 幼児期における言語発達の順序  (b) 母語の獲得について  (c) 主な言語習得理論</p>	<p>予習: 指定の配布資料を読み、疑問に思った点を事前にリストし、授業での議論に備える。(90分)</p> <p>復習: 配布資料を再読し、自己の学習体験を振り返り、内容理解を深める。(30分)</p>
第3回	今井純子	<p>言語の習得(2):</p> <p>(a) 母語獲得と第二言語の違い  (b) 主な第二言語習得理論</p>	<p>予習: 指定の配布資料を読み、疑問に思った点を事前にリストし、授業での議論に備える。(90分)</p> <p>復習: 配布資料を再読し、自己の学習体験を振り返り、内容理解を深める。(30分)</p>
第4回	今井純子	<p>言語の習得(3):</p> <p>(a) バイリンガリズム(二言語併用)  (b) 言語環境と習得の関係</p>	<p>予習: 指定の配布資料を読み、疑問に思った点を事前にリストし、授業での議論に備える。(90分)</p> <p>復習: 配布資料を再読し、自己の学習体験を振り返り、内容理解を</p>

			深める。(30分)
第5回	今井純子	言語の習得(4): (a) 習得の個人差について(言語適正、年齢、モチベーション等)	予習: 指定の配布資料を読み、疑問に思った点を事前にリストし、授業での議論に備える。(90分) 復習: 配布資料を再読し、自己の学習体験を振り返り、内容理解を深める。(30分)
第6回	今井純子	言語教育(1): (a) 学習者の特徴 (b) 教師の役割 (c) 学習者と教師の関係性	予習: 指定の配布資料を読み、疑問に思った点を事前にリストし、授業での議論に備える。(90分) 復習: 配布資料を再読し、自己の学習体験を振り返り、内容理解を深める。(30分)
第7回	今井純子	言語教育(2): (a) 言語の教え方の歴史と変遷 (b) 最近の英語教育の流れ	予習: 指定の配布資料を読み、疑問に思った点を事前にリストし、授業での議論に備える。(90分) 復習: 配布資料を再読し、自己の学習体験を振り返り、内容理解を深める。(30分)
第8回	今井純子	言語教育(3): (a) 言語プログラムの種類 (b) 言語カリキュラムの成り立ち (c) 言語政策とイデオロギー	予習: 指定の配布資料を読み、疑問に思った点を事前にリストし、授業での議論に備える。(90分) 復習: 配布資料を再読し、自己の学習体験を振り返り、内容理解を深める。(30分)
第9回	今井純子	言語教育(4): (a) 4技能の教え方 (b) タスクをベースとした教え方	予習: 指定の配布資料を読み、疑問に思った点を事前にリストし、授業での議論に備える。(90分) 復習: 配布資料を再読し、自己の学習体験を振り返り、内容理解を深める。(30分)
第10回	今井純子	言語の使われ方(1): (a) 言語接触と変遷 (b) 英語・日本語の種類と方言	予習: 指定の配布資料を読み、疑問に思った点を事前にリストし、授業での議論に備える。(90分) 復習: 配布資料を再読し、自己の学習体験を振り返り、内容理解を深める。(30分)
第11回	今井純子	言語の使われ方(2): (a) 会話の構造 (b) 言語使用から見る社会	予習: 指定の配布資料を読み、疑問に思った点を事前にリストし、授業での議論に備える。(90分) 復習: 配布資料を再読し、自己の学習体験を振り返り、内容理解を深める。(30分)
第12回	今井純子	言語の使われ方(3): (a) 応用言語学から見た異文化コミュニケーション (b) グローバル社会における英語	予習: 指定の配布資料を読み、疑問に思った点を事前にリストし、授業での議論に備える。(90分) 復習: 配布資料を再読し、自己の学習体験を振り返り、内容理解を深める。(30分)
第13回	今井純子	言語の分析 (a) 言語分析の主な単位 (b) 母語と第二言語の比較	予習: 指定の配布資料を読み、疑問に思った点を事前にリストし、授業での議論に備える。(90分) 復習: 配布資料を再読し、自己の学習体験を振り返り、内容理解を深める。(30分)
第14回	今井純子	その他のテーマの紹介 (a) 外部講師による特別講義(テクノロジーの使い方、認知・言語心理学、クリティカル・ペダゴジー等) (b) 担当者による研究の紹介(第二言語ライティング等)	予習: 指定の配布資料を読み、疑問に思った点を事前にリストし、授業での議論に備える。(90分) 復習: 配布資料を再読し、自己の学習体験を振り返り、内容理解を深める。(30分)
第15回	今井純子	まとめ (a) 学生による成果発表 (b) 学習の振り返り (c) 主な研究課題と研究方法の紹介	予習: 成果の共有に向けて、スライドや配布資料を準備する。(90分) 復習: 今学期の学習内容を自己の学習体験を合わせて振り返り、関係性を見出す。(30分)




2020/02/21(金)15:22

授業科目名	コミュニケーション(翻訳)		授業形態	講義
英語科目名	Communication: Translation		開講学期	前期
対象学年	2		単位数	2
科目責任者	齊藤 美野		ナンバリング	4404
科目担当者	齊藤 美野			
授業の概要	<p>「翻訳」は、A言語をB言語へ変換するだけの単純な行為ではなく、異なる言語を用い、文化や社会、政治、思想なども異にする人たちの間を繋ぐ営み、すなわちコミュニケーションである。そのような営みである翻訳について明確に理解することを目指し、翻訳の歴史、現代社会における役割、さまざまなジャンル、訳出法、さらに翻訳について考えるための翻訳学の諸理論を学習する。授業は、講義を中心に進めるが、グループ・ワークや個人で翻訳作品の分析に取り組み、発表するなど、受講生が積極的に参加できる機会を随時用意する。</p>			
授業の達成目標	<p>1. 翻訳を異文化を繋ぐコミュニケーションと捉えた上で、翻訳の歴史や役割、ジャンル、訳出法について理解、説明できる。</p> <p>2. 翻訳について考えるための基本的な翻訳学の理論について理解し、説明できる。</p> <p>3. 理論を用いて翻訳テキストの分析を行える。</p>			
成績評価方法	<p>授業内の活動への参加・貢献度(10%)、小テスト(講義・教科書から学んだ点の理解度)×2回(30%)、レポート(翻訳理論の理解度、理論を用いた分析ができるか)(60%)の合計点により最終評価を行う。</p> <p>3分の2以上の授業回出席を評価の前提条件とし、欠席は減点とする。</p>			
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)	<p>【履修者数の制限】履修者数の上限を70名とする。履修希望者が左記の上限を上回る場合、初回授業中に、上の学年の学生を優先したうえで抽選を行う。履修希望者は、初回授業に必ず出席すること。</p> <p>【課題・準備】「授業時間外の指導等」欄をよく読み、毎回の授業のために必要な準備を欠かさず行うことを期待する。</p> <p>授業で学んだ「翻訳」と自身の生活との関わりに意識を向けて、見つけた「翻訳」をレポートの題材とする。</p>			
テキスト・参考書	教科書:鳥飼玖美子(編著)(2013)『よくわかる翻訳通訳学』ミネルヴァ書房			
オフィスアワー	初回授業にて告知する。			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	小テストは採点后、授業にて返却する。レポートの返却を希望する者には後期開始時に返却する。			
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	齊藤 美野	異文化コミュニケーションとしての翻訳 1)「翻訳」にはどのようなジャンルがあり、私たちの生活とどのように関わっているのか学ぶ 2)「文化」「コンテキスト」等の概念を理解した上で翻訳との関連を考える	【予習】翻訳にはどのような種類があるか、身近な例を探し、書き出しておく(90分) 【復習】身の回りにある翻訳を、ジャンル、異文化コミュニケーション、コンテキスト等の観点から分析する(90分)	
2	齊藤 美野	翻訳学とは何か 1) 翻訳学の基本用語を覚える 2) 翻訳を研究する学問分野である翻訳学の研究対象を概観する	【予習】教科書の「翻訳と通訳を学ぶにあたって必要な用語」(pp. ii i-iv)、「翻訳学の「マップ」」(pp. 114-115)を読み、大切な点を書き出しておく(90分) 【復習】本日の授業で学んだことを、ノート等に自分のことばでまとめ直す(90分)	
3	齊藤 美野	翻訳の歴史 1) 歴史上、翻訳が果たした重要な役割について考える	【予習】教科書の「翻訳と明治の近代化①」「翻訳と明治の近代化②」(pp. 18-21)を読み、大切な点を書き出しておく(90分) 【復習】本日の授業で学んだことを、ノート等に自分のことばでまと	

		2) 日本の明治期における、翻訳と近代化の関連を探る	め直す(90分)
4	齊藤 美野	現代社会における翻訳 1) 現代において翻訳が担う役割を確認する 2) 翻訳者の仕事に対する態度、設定する狙い、選択する訳出法などを学ぶ	【予習】教科書の「翻訳者の役割」(pp. 44-45)を読み、大切な点を書き出しておく(90分) 【復習】本日の授業で学んだことを、ノート等に自分のことばでまとめ直し、独自の例も加える(90分)
5	齊藤 美野	古典的翻訳理論 1) 紀元前から論ぜられてきた翻訳理論の初期のものを確認する。 2) 古典的理論と現在の翻訳研究の問題意識の共通点を探る	【予習】教科書の「西洋の古典的翻訳理論」(pp. 112-113)を読み、大切な点を書き出しておく(90分) 【復習】本日の授業で学んだことを、ノート等に自分のことばでまとめ直す(90分)
6	齊藤 美野	小テスト1 現代の翻訳理論: 等価 1) 起点・目標テキスト間の関係性を捉えるための「等価」概念を学ぶ 2) 等価概念の翻訳研究における重要性を考える	【予習】小テスト1に備える(出題範囲等は、第5回授業にて告知予定)(90分) 【復習】教科書の「等価」(pp. 118-119)を読みながら、本日の授業の復習をする(90分)
7	齊藤 美野	ゲスト講義 北代美和子氏(翻訳家, 東京外国語大学講師) 「キツネは自分をなんと呼ぶ? - Style, voice, point of view」	【予習】指定資料を読み、指示に従い準備しておく(90分) 【復習】本日の授業で学んだことを、ノート等に自分のことばでまとめ直す(90分)
8	齊藤 美野	現代の翻訳理論: 等価(事例研究) 1) 「等価」概念について復習する 2) 「等価」概念を用いた分析をグループで行い、結果を報告する	【予習】事例分析のための指定資料を読み、自分なりの考察をしておくこと(90分) 【復習】前回の復習としてまとめた内容に、事例研究の結果を書き加える(90分)
9	齊藤 美野	現代の翻訳理論: 機能主義的アプローチ 1) 「スコpos」と「テキストタイプ」概念について理解する 2) 翻訳の目的やジャンルと訳出法の間関係を考える	【予習】教科書の「機能主義的アプローチ(スコpos理論)」 「翻訳のテキストタイプ」(pp. 122-125)を読み、大切な点を書き出しておく(90分) 【復習】次回の分析に備えて「スコpos」「テキストタイプ」について自分なりにまとめておく(90分)
10	齊藤 美野	現代の翻訳理論: 機能主義的アプローチ(事例研究) 1) 機能主義的アプローチの復習をする 2) 「スコpos」及び「テキストタイプ」概念を用いた分析をグループで行い、結果を報告する	【予習】事例分析のための指定資料を読み、自分なりの考察をしておく(90分) 【復習】前回の復習としてまとめた内容に、事例研究の結果を書き加える(90分)
11	齊藤 美野	現代の翻訳理論: 異質化と受容化 1) 「異質化」「受容化」概念を理解する 2) 翻訳者の「不可視性」について考える	【予習】教科書の「異質化と受容化(翻訳者の不可視性)」(pp. 136-137)を事前に読み、大切な点を書き出しておく(90分) 【復習】授業を振り返りながら、レポート執筆の準備をする(90分)
12	齊藤 美野	現代の翻訳理論: 異質化と受容化(事例研究) 1) 「異質化」「受容化」概念の復習をする 2) 「異質化」「受容化」概念を用いた分析をグループで行い、結果を報告する	【予習】事例分析のための指定資料を読み、自分なりの考察をしておく(90分) 【復習】授業を振り返りながら、レポート執筆の準備をする(90分)
13	齊藤 美野	現代の翻訳理論: 多元システム理論 1) 「多元システム理論」について理解する 2) 社会的コンテキストと翻訳者の態度、訳出法の選択、翻訳の社会的地位の関わりについて考える	【予習】教科書の「多元システム理論」(pp. 128-129)を読み、大切な点を書き出しておく(90分) 【復習】授業を振り返りながら、レポート執筆の準備をする(90分)
		小テスト2	

14	齊藤 美野	<p>現代の翻訳理論：多元システム理論 (事例研究)</p> <p>1)「多元システム理論」の復習をする 2)「多元システム理論」を用いた分析をグループで行い、結果を報告する</p>	<p>【予習】小テスト2に備える(出題範囲等は、第13回授業にて告知予定)(90分)</p> <p>【復習】レポートを執筆する(120分)</p>
15	齊藤 美野	<p>レポートの報告とまとめ</p> <p>1) レポート用に行った事例研究の内容を報告する 2) 本授業で学んだ概念や理論を振り返り、多様な文化・歴史的コンテキストと翻訳に関する問題意識の変遷との繋がりを考え、各時代・文化においてコミュニケーションとしての翻訳がどのように機能してきたか確認する</p>	<p>【予習】レポートの内容を報告する準備を行う(レポート・報告の詳細は、授業内で説明する)(90分)</p> <p>【復習】クラスメイトの発表から知った事柄を、本授業で学んできた理論等と結びつけながら振り返り、翻訳に対し新しく得た視点をノート等にまとめる(90分)</p>

2020/02/26(水)14:50

授業科目名	コミュニケーション(通訳)		授業形態	講義
英語科目名	Communication: Interpreting		開講学期	前期
対象学年	2		単位数	2
科目責任者	平塚 ゆかり		ナンバリング	4405
科目担当者	平塚 ゆかり			
授業の概要	通訳は古来より異文化間、異言語間の意思伝達のため翻訳に先駆けて行なわれてきた。通訳とはいかなる行為なのかを探るため、本講義ではまず日本と世界における通訳の歴史を繙き、これまで通訳が果たしてきた役割を振り返る。次に、現代社会における通訳を①異文化コミュニケーションと通訳、②職業としての通訳 ③通訳教育 ④通訳研究 ⑤グローバル化と通訳 などの各アプローチから、その役割と意義、現状と課題について議論を行なう。			
授業の達成目標	1. 通訳とは、単なる言語の置き換えではなく「異文化コミュニケーション」としての営為であることを理解、説明できる。 2. 通訳を体系的・理論的に理解し、自分の言葉で説明できる。 3. 通訳の果たす役割と日本の通訳の現状を把握し、その課題について思索する。			
成績評価方法	授業への出席、参加・貢献度(25%)、リアクションペーパー(25%)学期末レポート試験(50%)			
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)	「授業時間外の指導等」欄の指示をよく読み、毎回の授業には適切な準備を行なったうえで参加すること。授業において積極的な発言や参加を歓迎する。			
テキスト・参考書	教科書: 鳥飼玖美子(編著)(2013)『よくわかる翻訳通訳学』ミネルヴァ書房。 毎回の授業内容に関する書籍や論文、授業の際に指示する。			
オフィスアワー	別途公開している教員のオフィスアワーを確認すること。			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	授業内で適宜返却予定。			
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	平塚 ゆかり	通訳とは何か 通訳訓練方法、通訳に必要な準備とは 通訳訓練体験を通して通訳という営為を知る	【予習】初回の授業までに教科書の「はじめに」(pp. i-ii)と「翻訳と通訳を学ぶにあたって必要な用語」(p. iii)を読み、疑問点や感想をまとめて授業に参加すること。(90分) 【復習】授業内で指示する。(90分)	
2	平塚 ゆかり	通訳の種類	【予習】教科書の「同時通訳／逐次通訳(ウイスピーング／サイト・トランスレーション)」「対話通訳／手話通訳」(pp. 52-54)ならびに指定された文献を読み、疑問点や感想をまとめて授業に参加すること。を読んでおくこと。(90分) 【復習】授業内で指示する。(90分)	
3	平塚 ゆかり	職業としての通訳	【予習】教科書の「会議通訳」「ビジネス通訳」「放送通訳」「司法通訳／法廷通訳」「コミュニティ通訳(医療／教育)」「通訳案内士(通訳ガイド)」(pp. 56-67)ならびに指定された文献を読み、疑問点や感想をまとめて授業に参加すること。を読んでおくこと。(90分) 【復習】授業内で指示する。(90分)	
4	平塚 ゆかり	新大陸の通訳者 グローバル化時代における通訳 と異文化コミュニケーション、多言語社会としての日本における通訳	【予習】教科書の「翻訳通訳と異文化コミュニケーション」(pp. 2-3)「グローバル化と通訳」(pp. 10-11)「日本の多言語化とコミュニティ」(pp. 28-29)「新大陸の通訳者」(pp. 30-31)ならびに指定された文献を読み、疑問点や感想をまとめて授業に参加すること。(90分) 【復習】授業内で指示する。(90分)	

5	平塚 ゆかり	会議通訳から同時通訳の誕生 ニュルンベルグ裁判と東京裁判における通訳	【予習】教科書の「会議通訳の誕生：パリ講和会議」「同時通訳の誕生：ニュルンベルグ裁判」(pp. 34-37)、「東京裁判」(pp. 22-23)「戦後外交と同時通訳」「アポロ宇宙中継と同時通訳」(pp. 24 -27)、ならびに指定された文献を読み、疑問点や感想をまとめて授業に参加すること。(90分) 【復習】授業内で指示する。(90分)
6	平塚 ゆかり	通訳学とは何か	【予習】教科書のXII「通訳学」(pp.156-163)並びに指定された文献を読み、疑問点や感想をまとめて授業に参加すること。(90分) 【復習】授業内で指示する。(90分)
7	平塚 ゆかり	司法通訳の現状 司法通訳者である外部講師を招き、司法通訳についての講義を聞く	【予習】課題図書を読んで参加すること。(90分) 【復習】授業内で指示する。(90分)
8	平塚 ゆかり	正確な通訳とは	【予習】教科書の「3種類の翻訳」(pp.4-5)、「等価」(pp. 118-119)、「普遍的特性」(pp. 132-133)、「言語人類学」(pp.164-165)、「語用論」(pp. 168-169)ならびに指定された文献を読み、疑問点や感想をまとめて授業に参加すること。(90分) 【復習】授業内で指示する。(90分)
9	平塚 ゆかり	中国の通訳史	【予習】教科書の「中国の通訳」(pp. 32-33)、「中国通訳史と仏典翻訳」(pp. 40-41)、「中国の翻訳論：嚴復の『信達雅』」(pp. 148-149)を読み、疑問点や感想を授業で述べられるようにまとめて授業に参加すること。(90分) 【復習】授業内で指示する。(90分)
10	平塚 ゆかり	日本の通訳史	【予習】教科書の「古代日本の通訳」(pp. 14-15)、「長崎通詞」(pp. 16-17)、事前に配布した文献を読み、疑問点や感想を授業で述べられるようにまとめて授業に参加すること。(90分) 【復習】授業内で指示する。(90分)
11	平塚 ゆかり	日本の通訳：現状と課題	【予習】指定された文献を読み、疑問点や感想をまとめて授業に参加すること。(90分) 【復習】授業内で指示する。(90分)
12	平塚 ゆかり	通訳者の役割と規範	【予習】教科書の「通訳者の役割」、(pp. 46-47)、「翻訳者・通訳者の倫理規定」「透明性、中立性」(pp. 48-51)を読み、疑問点や感想を授業で述べられるように準備しておく。(90分) 【復習】授業内で指示する。(90分)
13	平塚 ゆかり	通訳教育の現状と課題 通訳学校の講師を招き、通訳教育の現場についての講演を聞く	【予習】教科書の「適正と資格」(pp. 94-95)、「通訳者コンピタンスと訓練」「高等教育機関での翻訳者・通訳者養成」(pp. 98-101)を読み、疑問点や感想を授業で述べられるようにまとめて授業に参加すること。(90分) 【復習】授業内で指示する。(90分)
14	平塚 ゆかり	後半のまとめ	【予習】後半のトピックについてフリーディスカッションを行なうので、適宜準備しておくこと。(90分) 【復習】授業内で指示する。(90分)
15	平塚 ゆかり	学期のまとめ	学期末レポート提出(レポートのテーマや提出期限等の詳細は授業内で指示する)(90分) 【復習】授業内で指示する。(90分)


2020/02/21(金)16:20

授業科目名	文化としての記号(文化記号論)		授業形態	講義
英語科目名	Cultural Semiotics		開講学期	後期
対象学年	2		単位数	2
科目責任者	浅野 浩代		ナンバリング	4406
科目担当者				
浅野 浩代				
授業の概要				
<p>本講義では、〈自然と文化〉という人間を取り巻く全ての事象を理論的かつ包括的に理解・分析する枠組みとして、文化記号論を学習する。文化記号論とは、類像性、指標性、象徴性という原理を下敷きにし、人間の認識が立ち現れる仕組み、世界が主に言語を通して意味化／記号化される過程を審らかにするものである。授業では、文化記号論があらゆる学問分野を体系的に接合する理論であることを理解し、身の周りで起きる多様な文化現象を領域横断的に思考する基盤となりうることについて学習する。また必要に応じて、英語(文化)や他言語(文化)における具体的な記号現象を考察し、文化現象としての英語によるコミュニケーションへの理解を深め、異文化理解へのさらなる一助に繋げる。</p>				
授業の達成目標				
<p>1. 人間が認識できる全ての事象は、「文化現象である」という考え方について理解を深める。  2. 「文化現象である」とは、世界が意味を伴って現れること(記号化されること)であることを学習する。  3. 文化記号論の広範な射程を理解し、身の周りで生じる様々な事象だけではなく、異なる(言語・)文化圏で起きる全ての事象を「記号現象」として捉え、探求する姿勢を養う。</p>				
成績評価方法				
<p>通常点(20%)、中間レポート(／事例研究発表)(20%)、学期末レポート(60%)の総合点により最終評価をする。  通常点は単なる出席回数ではなく、授業への参加度合い、リアクション・ペーパーの内容を合わせて判断する。  3分の2以上の授業回出席を評価の前提条件とし、欠席は減点とする。  成績評価基準: 1. 文化記号論で用いられる専門用語を適切に説明できるかどうか 2. 自分の身の周りの事象を文化記号論的視点から(全てを記号現象と捉えて)、的確に分析・考察することができるかどうか 3. 文化記号論的な姿勢をもって世界を捉える意義について、自分自身の考えを明確に表すことができるかどうか</p>				
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)				
<p>毎回の授業に臨むにあたって、「授業時間外の指導等」の欄に記載された【予習・復習】を欠かさず行うよう心がけてほしい。  授業で行うディスカッション、グループ・ワーク、発表に、積極的に参加することを期待する。  スケジュールは履修人数や状況に応じて変更の可能性がある。  授業の運営上、90名を上限とする。</p>				
テキスト・参考書				
<p>教科書: 池上嘉彦(1984).『記号論への招待』岩波書店.  参考書: 有馬道子(2015).『日英語と文化の記号論』開拓社.  その他、授業にて適宜指示、配布をする。</p>				
オフィスアワー				
授業終了後に教室で質問を受け付ける。				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法				
授業内を利用し返却予定。適宜補足解説を行う。				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	浅野 浩代	<p>ことばを捉え直す  :ことばから記号へ  1)現代記号論における「記号」とは何かについて理解する  2)ことばについての新しい認識を深める</p>	<p>【予習】(90分)  教科書を用意し、教科書の以下のページ:(pp.2-7)と(pp.10-11)「ことばについての新しい認識」を読んでおく。  【復習】(90分)  本授業で学んだことをノートにまとめ直し、人間を取り巻く全ての事象を記号作用として考える意義について復習する。</p>	
		コミュニケーションの仕組み①	【予習】(90分)	



2	浅野 浩代	1)コミュニケーションの2つの型を学ぶ 2)「コード」、「コンテキスト」などの概念を覚える	教科書(pp.36-44)を読み、重要な点を書き出しておく。 【復習】(90分) 本授業で学んだことをノートにまとめ直し、身の周りの出来事と関連させながら大切な点を確認しておく。
3	浅野 浩代	コミュニケーションの仕組み② 1)人間的なコミュニケーションと「仮説的推論」について学ぶ	【予習】(90分) 教科書(pp.54-62)を読み、重要な点を書き出しておく。 【復習】(90分) 本授業で学んだことをノートにまとめ直し、身の周りの出来事と関連させながら大切な点を確認しておく。
4	浅野 浩代	コミュニケーションの仕組み③ 1)人間的なコミュニケーションと「仮説的推論」についての事例研究	【予習】(90分) 身の周りの事象を記述し、「仮説的推論」を用いて説明、発表ができるようにしておく。 【復習】(90分) 本授業で学んだことをノートにまとめ直し、身の周りの出来事と関連させながら大切な点を確認しておく。
5	浅野 浩代	コミュニケーションの仕組み④ 1)人間的なコミュニケーションと「仮説的推論」についての事例研究	【予習】(90分) 身の周りの事象を記述し、「仮説的推論」を用いて説明、発表ができるようにしておく。 【復習】(90分) 本授業で学んだことをノートにまとめ直し、身の周りの出来事と関連させながら大切な点を確認しておく。
6	浅野 浩代	記号と意味作用① 1)「記号表現」と「記号内容」について学ぶ 2)「記号表現」と「記号内容」は恣意的な関係であることを理解する:異なる(言語・)文化圏では、特に両者の関係が顕著となることを確認する	【予習】(90分) 教科書(pp.66-72)を読み、重要な点を書き出しておく。 【復習】(90分) 本授業で学んだことをノートにまとめ直し、身の周りの出来事と関連させながら大切な点を確認しておく。
7	浅野 浩代	記号と意味作用② 1)「記号内容」は、「意味」なのか、「指示物」なのか、ということについて理解をする 2)「意味」と「指示物」の通常の関係性と逆転した関係性について確認する	【予習】(90分) 教科書の以下のページ:(pp.88, line9-92)と(pp.98, line12-101, line8)を読み、重要な点を書き出しておく。 【復習】(90分) 本授業で学んだことをノートにまとめ直し、身の周りの出来事と関連させながら大切な点を確認しておく。
8	浅野 浩代	記号と意味作用③ 1)「記号表現」と「指示物」の関係:有契性と無契性について学ぶ 2)3つの原理:類像性、指標性、象徴性についての知識を深める	【予習】(90分) 教科書(pp.101, line9-108)を読み、重要な点を書き出しておく。 【復習】(90分) 本授業で学んだことをノートにまとめ直し、身の周りの出来事と関連させながら大切な点を確認しておく。
9	浅野 浩代	記号と意味作用④ 1)3つの原理:類像性、指標性、象徴性についての知識を深める	【予習】(90分) 3つの原理:類像性、指標性、象徴性に関する指定資料を読み、身の回りの事象と照らし合わせて分析をしておく。 【復習】(90分) 本授業で学んだことをノートにまとめ直し、身の周りの出来事と関連させながら大切な点を確認しておく。
10	浅野 浩代	記号と意味作用⑤ 1)3つの原理:類像性、指標性、象徴性についての知識を下敷きにして、事例研究を行う	【予習】(90分) 3つの原理:類像性、指標性、象徴性についての知識を下敷きにして、指定資料の分析をし発表に備えておく。 【復習】(90分) 本授業で学んだことをノートにまとめ直し、身の周りの出来事と関連させながら大切な点を確認しておく。

11	浅野 浩代	<p>「分節」と意味作用</p> <p>1)分節、コード、意味作用について理解を深める</p> <p>2)2つの異なるレベルでの意味作用:「表示義」と「共示義」について学ぶ</p> <p>記号と統辞</p> <p>1)統辞的なコードについて理解する</p> <p>2)統辞的な連鎖が1つの記号として記号内容を伴う(=イディオム現象である)ことを、「表示義」・「共示義」との関連で捉える</p>	<p>【予習】(90分)</p> <p>教科書の以下のページ: (pp.109-112)と(pp.120, line4-123)、さらに(pp.123, line13-128)と(pp.155, line15-158, line10)を読み、重要な点を書き出しておく。</p> <p>【復習】(90分)</p> <p>本授業で学んだことをノートにまとめ直し、身の周りの出来事と関連させながら大切な点を確認しておく。</p>
12	浅野 浩代	<p>テキストと「話す主体」</p> <p>1)「主体」としての人間が関わり、主体的に「仮説的推論」や「知識体系」、「コンテキスト」などの参照がなされる点について理解する</p> <p>2)「知識体系」:「フレーム」、「スキーマ」について学ぶ</p> <p>3)テキストの「ジャンル」をコードとして認識する</p> <p>4)3つの原理:類像性、指標性、象徴性についての知識を土台にし、事例を分析、考察する</p>	<p>【予習】(90分)</p> <p>教科書の以下のページ: (pp.178-181)と(pp.186, line10-189)を読み、重要な点を書き出しておく。</p> <p>【復習】(90分)</p> <p>本授業で学んだことをノートにまとめ直し、身の周りの出来事と関連させながら大切な点を確認しておく。</p> <p>また、本日までの授業を振り返りながら学期末レポートの準備をする。</p>
13	浅野 浩代	<p>文化を記号として捉える</p> <p>1)様々な文化的対象を「記号」として捉え直す:衣服、身振り、宝石などの身近な対象を取りあげ、学生自身の経験と照らし合わせながら理解を深める</p> <p>2)種々の文化的対象の「文化的価値」を「記号内容」として理解する:文化的対象の「意味・価値づけ(=記号化)」のなされ方が、異文化間ではそれぞれ異なることを体験的に理解する</p> <p>3)言語と文化の相同性を確認する:</p> <p>a) 民話、迷信、遊びなどの具体例から考察する</p> <p>b) 日本語と日本文化(衣・食・住など)、英語と英語圏の文化(衣・食・住など)の相同性についても確認をする</p> <p>c) 多様な文化的背景を有する人々同士で、これまでの言語(・文化)学習の経験の中で印象深かった言語と文化の相同的な類似性について話し合い、相互に新たな発見と学びを得る</p>	<p>【予習】(90分)</p> <p>教科書の以下のページ: (p.192)と(pp.216「なぜ言語なのか」の部分-225)を読み、重要な点を書き出しておく。</p> <p>【復習】(90分)</p> <p>本授業で学んだことをノートにまとめ直し、身の周りの出来事と関連させながら大切な点を確認しておく。</p> <p>また、本日までの授業を振り返りながら学期末レポートの準備をする。</p>
14	浅野 浩代 (招聘講師担当予定)	<p>様々な文化的対象を「記号」と捉えた事例研究</p> <p>1)ここまで学んだ概念についての復習をする</p> <p>2)グループで指定資料を分析し、発表をする</p> <p>a) 学生自身の異文化間での経験をもとに、実際のコミュニケーションにおける「衣・食・住」などにかかわる文化的対象を「記号」として考察する / b) 欧米やアジアからの帰国子女や就労者、留学生などをゲストティーチャーとして招き、出身(・出生)地の文化と日本文化との比較をしながら生活体験談を共有して</p>	<p>【予習】(90分)</p> <p>事例研究のための指定資料(第13回授業で指示)に目を通し、自分なりの分析・記述をしておく。</p> <p>【復習】(90分)</p> <p>本日までの授業を振り返りながら学期末レポートを執筆する。</p>

		もらう	
15	浅野 浩代	文化記号論を体験的にまとめる 1) これまでの授業を振り返り、文化記号論の基本的な姿勢を再確認する 2) 共有してきた様々なコミュニケーション現象を記号論的視点から考察しながら、多様な文化を体験的に理解する 3) 今後、異文化社会を理解する際、文化記号論の知見がどのように活かされるのかについて、具体的な場面を想定しつつクラスメイトと話し合う	【予習】(90分) 本日までの授業を振り返りながら学期末レポートを執筆する。 【学期末レポート課題】 これまで学んだ概念を用いて、身近な事例を取り上げ、その現象を理論的に記述・分析すること。それをレポートとして提出すること。 【復習】(90分) これまでの授業を振り返り、全ての事象を「記号」として捉えることでもたらされた、新たな世界の見方について確認をする。

2020/07/02(木)15:49

授業科目名	異文化適応		授業形態	講義
英語科目名	Intercultural Adaptation		開講学期	後期
対象学年	2		単位数	2
科目責任者	高濱 愛		ナンバリング	4407
科目担当者				
高濱 愛				
授業の概要				
<p>異文化適応は、基本的には、例えば日本からアメリカに留学するというように、ある文化から他の文化への移動に伴って生じる現象である。この講義では異文化適応を、こうした環境移行に際し心身に障害がないことに加えて、学業や仕事といった目標達成との関係でも捉える。また、周囲の人々とより良い人間関係を築いたり、異文化性を克服したりといった側面からも捉えていく。こうした各種の困難を乗り越えることで、最終的には異文化理解ができるようになることを考える。</p> <p>講義の前半では、異文化適応に関する基本的な知識や理論について学ぶ。後半では、前半で学んだ知識を、例えば海外留学先といった実際の生活において活用できるようになることを目指す。これらを通じて、様々なバックグラウンドを持つ人々と協働していく上で求められる異文化理解の力を高めることを目標とする。</p>				
授業の達成目標				
<p>1) 異文化適応に関する基本的な概念・理論・モデルについて知る。</p> <p>2) アメリカへの留学を例にとって、留学先で役立つソーシャルスキルを体験型・参加型の授業を通じて修得する。</p> <p>3) 上記の1と2を通じて、異文化理解の力を高める。</p>				
成績評価方法				
各講義後に提出するリアクションペーパー(50%)と最終回に実施する期末試験(50%)の結果を総合的に評価する。なお、出席が基準の回数を満たすことが評価の前提である。				
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・短期海外研修や、派遣留学などに初めて参加を希望・予定する学生が、渡航前に受講するのに適した講義である。そのため、海外留学初心者の履修を勧める。本講義への参加を通じて、その後の海外生活が豊かなものになるよう応援したいと考えている。</li> <li>・上記と異なり、既に海外滞在等の経験を有する学生が受講する場合は、その体験を可能な限り積極的に共有していくことが望ましい。</li> <li>・適宜外国人留学生をゲストとして招き、彼らとともにディスカッションや英語のロールプレイに参加してもらうことを予定している。これにより、実践的に異文化コミュニケーションを学ぶことが可能となる。</li> <li>・講義で扱うテーマが、過去・現在・未来の自分(たち)の生活とどのようなかかわりがあるのかを考えながら履修すること。</li> </ul>				
テキスト・参考書				
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>なし</p> <p>※適宜プリントを配布する。</p> <p>&lt;参考書&gt;</p> <p>稲村博(1980)『日本人の海外不適応』日本放送出版協会</p> <p>田中共子(1994)『アメリカ留学ソーシャル・スキル:通じる前向き会話術』アルク</p> <p>Paige, M. et al. (2009) "Maximizing Study Abroad: A Student's Guide to Strategies for Language and Culture Learning and Use" University of Minnesota.</p> <p>上記の他、必要に応じて適宜紹介する。</p>				
オフィスアワー				
初回講義で連絡する予定である。				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法				
リアクションペーパーやプレゼンテーション等に対しては、講義内でフィードバックを行う。				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	高濱	オリエンテーション 講義概要、スケジュール等を紹介する。 ※各回の冒頭に、ペアまたはグループ(2-4人)によるミニワークを行う予定。	【予習】シラバスをよく読んで、講義の概要や計画を理解しておく。(90分) 【復習】講義全体の説明を聞いたうえで、自分自身の受講計画や目標を設定する。(90分)	
2	高濱	異文化適応とは 異文化適応とはどのようなことなのか、また異文化適応の種類について知る。	【予習】配布されたプリントを読んでおく。(90分) 【復習】自分がこれまでどのような異文化適応を体験してきたかを思い出し、ノート等に記しておく。(90分)	

3	高演	異文化適応とカルチャーショック(1) 異文化適応のモデルについて学ぶ。	【予習】配布されたプリントを読んでおく。(90分) 【復習】前週にノートに記した自分の体験と、学習したモデルとにどのような相違があるかを比較する。(90分)
4	高演	異文化適応とカルチャーショック(2) シミュレーションゲームで異文化を疑似体験する。 (※受講人数により、シミュレーションゲームの内容を決定する。)	【予習】配布されたプリントを読んでおく。(90分) 【復習】シミュレーションゲームを通じて、最も印象に残ったことや気づいたことをノート等に記録しておく。(90分)
5	高演	異文化適応とカルチャーショック(3) シミュレーションゲームで異文化を疑似体験する。 (※受講人数により、シミュレーションゲームの内容を決定する。)	【予習】配布されたプリントを読んでおく。(90分) 【復習】シミュレーションゲームを通じて、最も印象に残ったことや気づいたことをノート等に記録しておく。(90分)
6	高演	日本における外国人の異文化適応 在日外国人留学生を例に、異文化適応を考える。 日本語教育分野等における取り組みを紹介する。	【予習】「外国人留学生在籍状況調査結果」(JASSO)や在留外国人調査の公表資料(法務省ウェブサイト)を参考にして、どのような国や地域から、どのような目的で日本に滞在する外国人がいるのかを調べる。(90分) 【復習】自分の住んでいる市区町村には、どのような国や地域から、どのような目的で滞在している外国人がいるのかを調べ、日常生活における自分との接点を考える。(90分)
7	高演	海外における日本人の異文化適応 海外で学ぶ日本人留学生を例に、異文化適応を考える。 英語教育分野等における取り組みを紹介する。	【予習】「海外在留邦人数調査統計」(外務省領事局政策課)等を参考にして、どのような国や地域に日本人が多いか、などを調べる。(90分) 【復習】自分が海外に留学したり海外で仕事をしたりする場合に滞在したいと思う国・地域を選ぶ。また、そこにどのような日本人がいるかを調べる。(90分)
8	高演	ソーシャルスキルとソーシャルサポートネットワーク(1) ソーシャルスキルとは何か、ソーシャルサポートとは何かを学ぶ。 異文化適応とソーシャルスキルとの関係について知る。	【予習】配布されたプリントを読んでおく。(90分) 【復習】ソーシャルスキルのリストをもとに、講義の後半に行うトレーニングの中から自分が参加したいものを1-2種類選ぶ。(90分)
9	高演	ソーシャルスキルとソーシャルサポートネットワーク(2) 異文化適応とソーシャルサポートネットワークとの関係について理解する。	【予習】配布されたプリントを読んでおく。(90分) 【復習】自分のソーシャルサポートネットワークについて、講義内に配布したプリントを完成させる。また、もし海外に留学した場合、どのようなネットワークが活用できるかを考える。(90分)
10	高演	ソーシャルスキルトレーニング(1) スキル①自己紹介・非言語的スキル 英語で行うロールプレイに参加することで、初級のソーシャルスキルを学ぶ。	【予習】配布されたプリントを読んでおく。(90分) 【復習】ロールプレイ参加者は、自分の演技を振り返って改善点等気づいたことを記録しておく。参加しなかった者は、自分だったらどのように演じられたかを考えてみる。(90分)
11	高演	ソーシャルスキルトレーニング(2) スキル②対人関係開始スキル 英語で行うロールプレイに参加することで、初級のソーシャルスキルを学ぶ。 第12回、第13回で学ぶスキルを2種類選んで決める。	【予習】配布されたプリントを読んでおく。(90分) 【復習】ロールプレイ参加者は、自分の演技を振り返って改善点等気づいたことを記録しておく。参加しなかった者は、自分だったらどのように演じられたかを考えてみる。(90分)
12	高演	ソーシャルスキルトレーニング(3) スキル③質問スキル 英語で行うロールプレイに参加することで、初級～中上級のソーシャルスキルを学ぶ。 (※受講者の希望やクラスでの話し合いにより、別のスキルを学習する可能性がある。)	【予習】配布されたプリントを読んでおく。(90分) 【復習】ロールプレイ参加者は、自分の演技を振り返って改善点等気づいたことを記録しておく。参加しなかった者は、自分だったらどのように演じられたかを考えてみる。(90分)
13	高演	ソーシャルスキルトレーニング(4) スキル④発言スキル 英語で行うロールプレイに参加することで、初級～中上級のソーシャルスキル	【予習】配布されたプリントを読んでおく。(90分) 【復習】ロールプレイ参加者は、自分の演技を振り返って改善点等

		を学ぶ。 (※受講者の希望やクラスでの話し合いにより、別のスキルを学習する可能性がある。)	気づいたことを記録しておく。参加しなかった者は、自分だったらどのように演じられたかを考えてみる。(90分)
14	高濱	まとめ これまでの講義の総括を行う。 期末試験について説明する。 (※ロールプレイに参加できていない学生がいる場合は、ソーシャルスキルトレーニングを継続する可能性がある。)	【予習】これまでの講義を振り返り、分からなかった点がないか確認する。(90分) 【復習】講義で総括した内容を振り返り、期末試験に必要な準備を進める。(120分)
15	高濱	期末試験 講義中に筆記試験を行う。	【予習】期末試験に向けて、これまでに学んだことを総復習して備える。(120分) 【復習】この講義から学んだこと、気づいたこと等を振り返り、現在の生活や将来のキャリア等にどうにかせるかを考えてみる。(90分)